

## 消費者動向調査 No.117

### テーマ「冬のボーナス使いみち調査」

- ◆ 調査時期 平成 27 年 10 月
- ◆ 調査対象 福岡県内のボーナスがある家庭の主婦 500 人  
(うち回答者 492 人、回答率 98.4%)

- ◆ 回答者区分

A.年代

	%
20代	7.5
30代	17.9
40代	36.4
50代	25.6
60代	12.6

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	46.6
妻だけ	11.3
両方	42.1

※当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。

**西日本シティ銀行**  
**NCBリサーチ&コンサルティング**

## [調査結果本文]

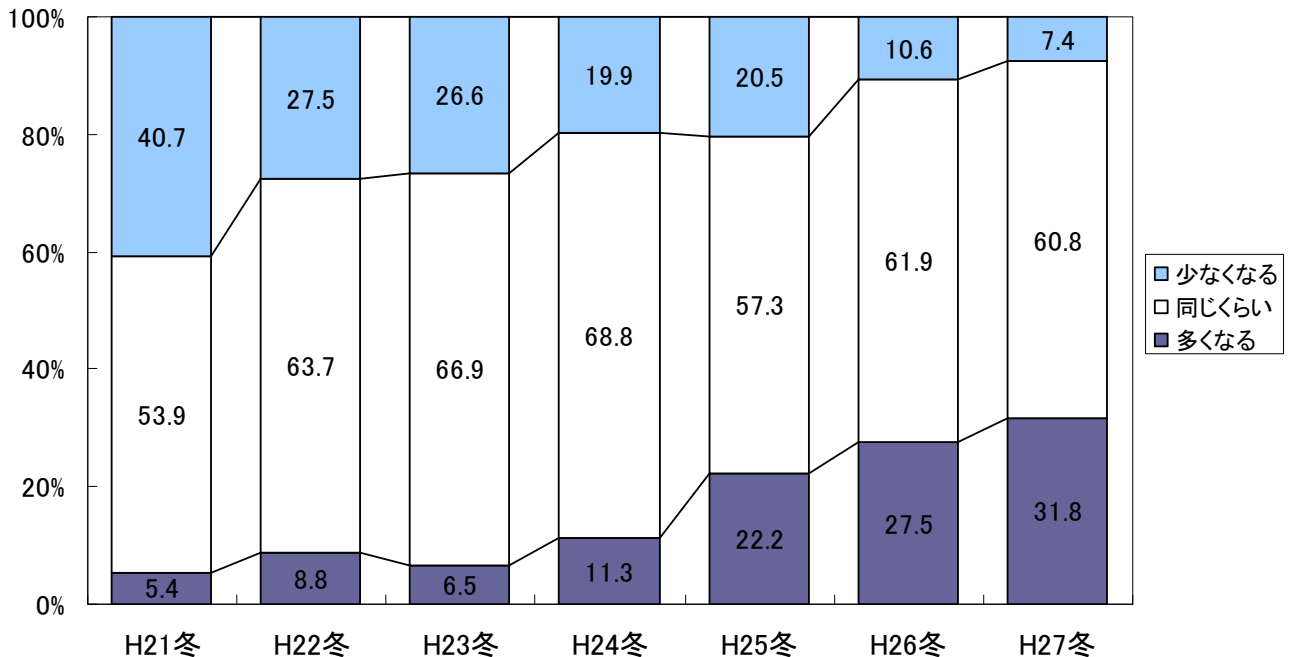
内閣府は10月の月例経済報告で、「景気は、このところ一部に弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。」と発表しています。先行きについては、「雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復に向かうことが期待される。ただし、アメリカの金融政策が正常化に向かうなか、中国を始めとするアジア新興国等の景気が下振れし、我が国の景気が下押しされるリスクがある。」としています。

このような中、消費者はこの冬のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、冬のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の主婦を対象に冬のボーナスについての消費動向をたずねました。

### ◆ 今年の冬のボーナス、前年冬と比較して「多くなる」は4.3ポイント増加し、31.8%で過去最高。

冬のボーナスが前年冬より「多くなる」と予測する割合は4.3ポイント増加し31.8%で、過去最高となった。「少なくなる」は3.2ポイント減少し7.4%、前年冬と「同じくらい」は1.1ポイント減少し60.8%であった。

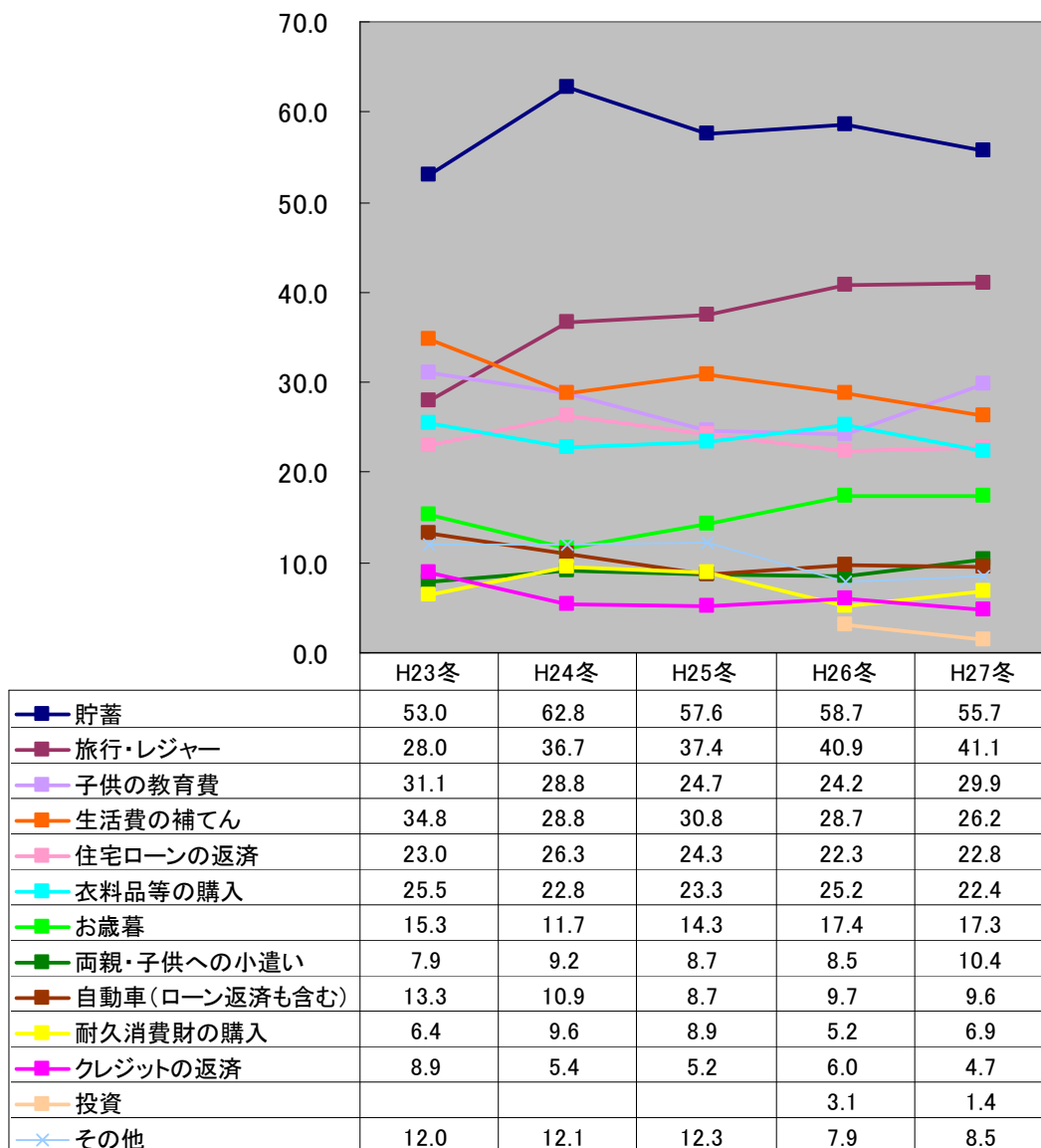
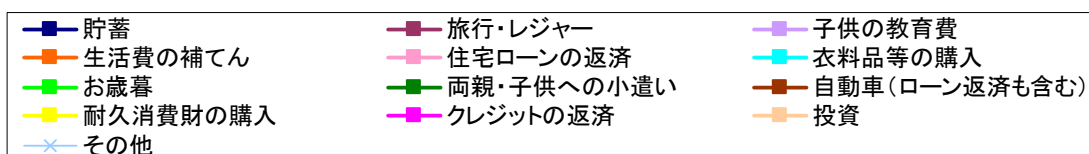
[グラフ1: 冬のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか] (単位:%)



◆冬のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で55.7%。2位は「旅行・レジャー」で41.1%。

冬のボーナスの使いみち予定1位は「貯蓄」で55.7%。これは前年冬の58.7%より3.0ポイント減少した。2位は「旅行・レジャー」で0.2ポイント増加して41.1%。3位は「子供の教育費」で29.9%となった。

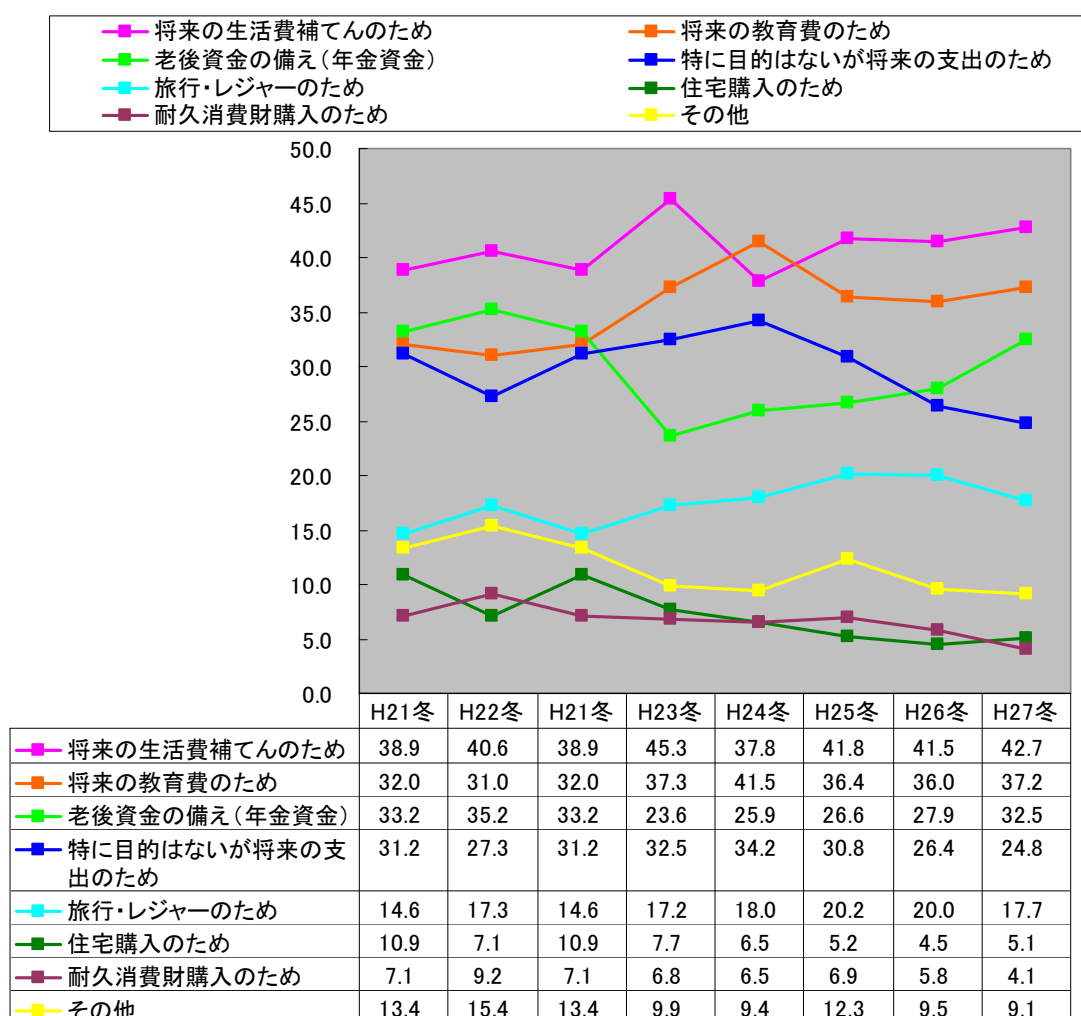
[グラフ2：冬のボーナスは何に使う予定ですか（3つまで）] (単位：%)



◆ボーナスを貯蓄・運用する目的、1位は「将来の生活費補てんのため」で42.7%。2位は「将来の教育費のため」で37.2%。

冬のボーナスを貯蓄する目的の1位は、「将来の生活費補てんのため」で前年冬に比べ1.2ポイント増加し、42.7%。2位は「将来の教育費のため」で1.2ポイント増加し37.2%であった。引き続き将来への備えが上位を占めた。

[グラフ3：将来の何のために冬のボーナスを貯蓄・運用しますか（2つまで）]

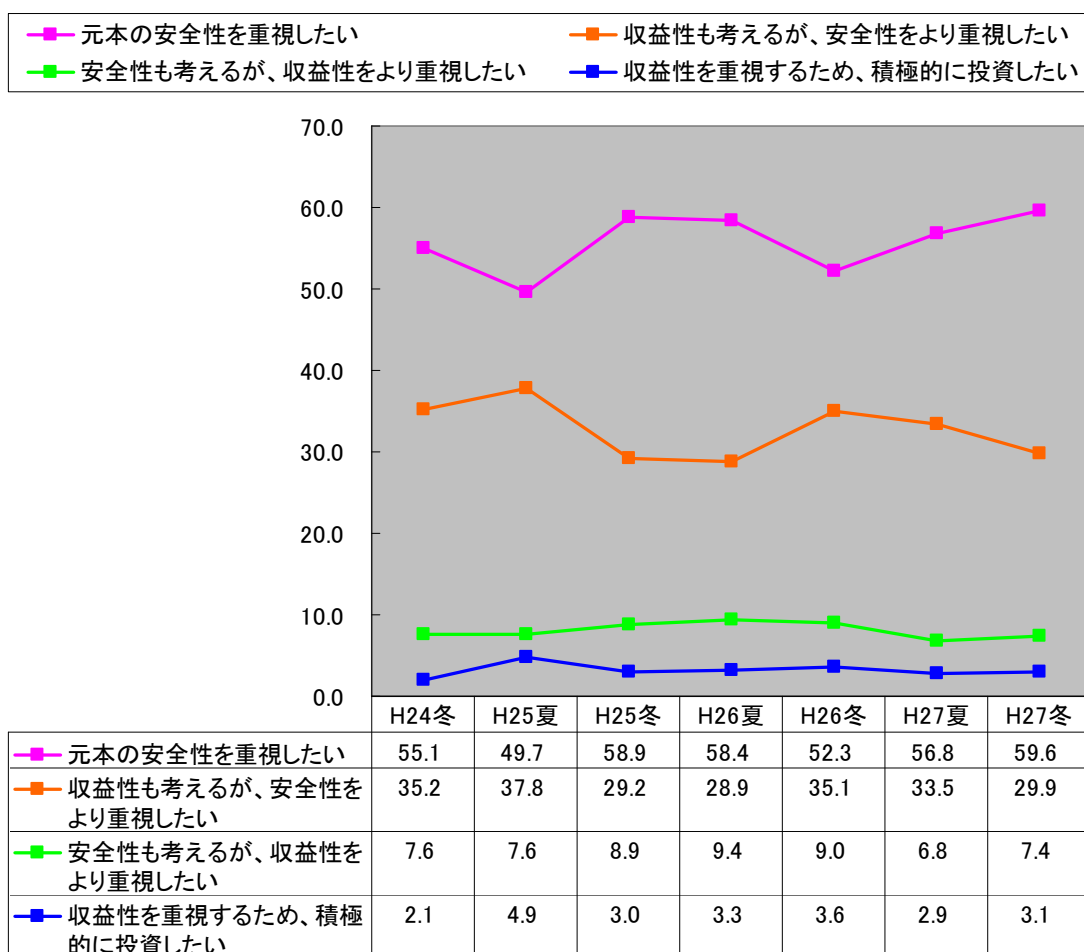


◆冬のボーナスを貯蓄・運用する場合の考えは、「元本の安全性を重視したい」が1位で、59.6%は過去最高。

「元本の安全性を重視したい」が11期連続の1位で、今年の夏から2.8ポイント増加し59.6%で過去最高。

「収益性も考えるが安全性をより重視したい」が今年の夏から3.6ポイント減少して29.9%。景気は緩やかな回復基調にあるものの、安全性を重視する割合が引き続き高水準である。

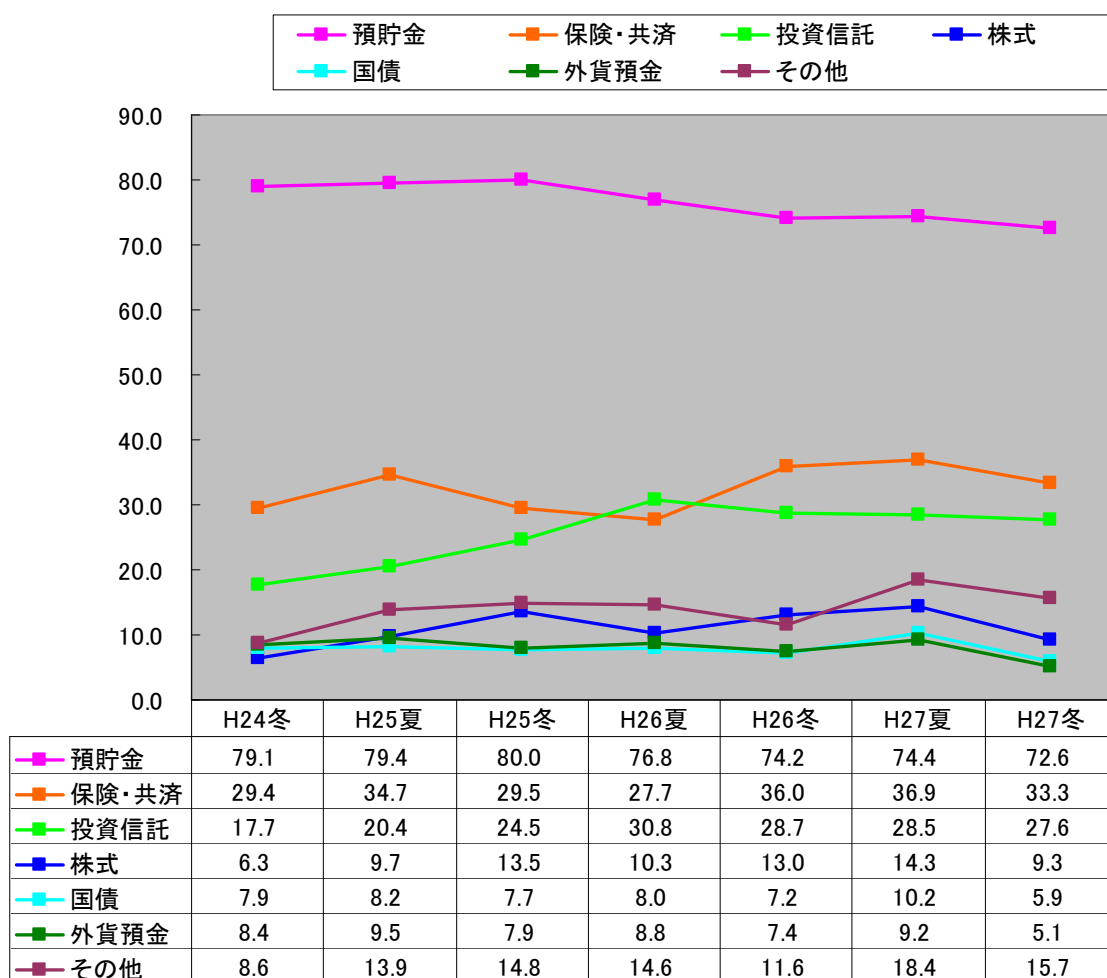
[グラフ4：冬のボーナスを貯蓄・運用する場合、あなたの考えに近いのは]  
(単位：%)



◆関心がある金融商品、1位は「預貯金」で今年の夏より 1.8 ポイント減少し 72.6%。

現在関心がある金融商品は「預貯金」が 72.6%で 1 位。2 位は「保険・共済」で 33.3%。景気は緩やかな回復基調にあるが、低金利や 8 月以降の一時的な株価下落や円高の進行で、すべての金融商品への関心が低下した。

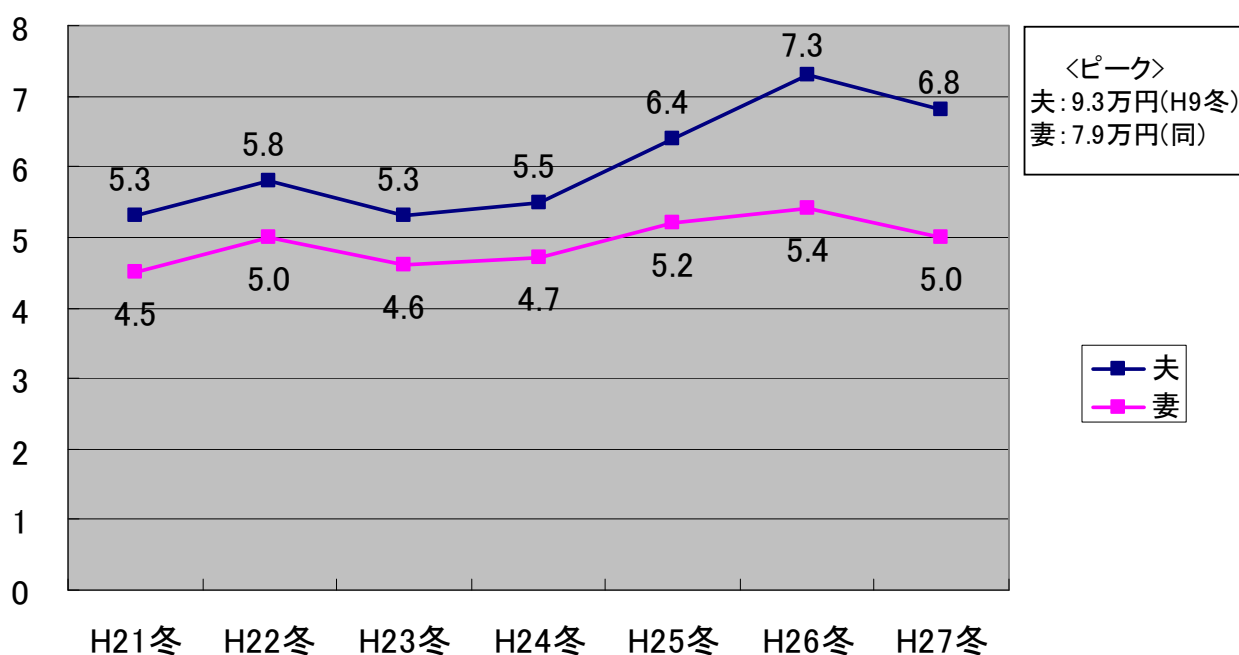
[グラフ 5：どのような金融商品に関心がありますか (いくつでも)] (単位：%)



◆冬のボーナス、自由に使える金額は、前年冬に比べて夫は 5 千円ダウン。妻は 4 千円ダウン。

冬のボーナス、夫が自由に使える金額は平均 6.8 万円（前年冬比 5 千円減）。妻が自由に使える金額は平均 5.0 万円（前年冬比 4 千円減）。冬のボーナスが“多くなる”との予想が増加したが、自由に使える金額は前年の冬から夫・妻ともに減少した。

[グラフ 6：自由に使える金額はどれくらいですか] （単位：万円）



この調査に関するお問い合わせ先は  
 西日本シティ銀行 広報文化部 長谷川 TEL 092-461-1869  
 NCB リサーチ&コンサルティング調査部 原 TEL 092-476-3051